

コロナ禍でのオリンピック開催と牧之原市のサーフィンスタジアム

コロナ感染の第5波が急速に拡大する中でオリンピックが始まりました。

1年延期したけれども、姿を変えるコロナウイルスはさらに感染力を強め、遅れているワクチン接種をあざ笑うがごとく日々感染者が増加しています。

当初は、有観客を想定していましたが、ほぼすべての競技で無観客となりました。選手をバブルで包んで「選手も日本国民も守る！」と厳重な感染対策を講じて準備していますが感染者は後を絶ちません。誰も経験したことのないオリンピックを、この未曾有の危機の中で成功させなければなりません。

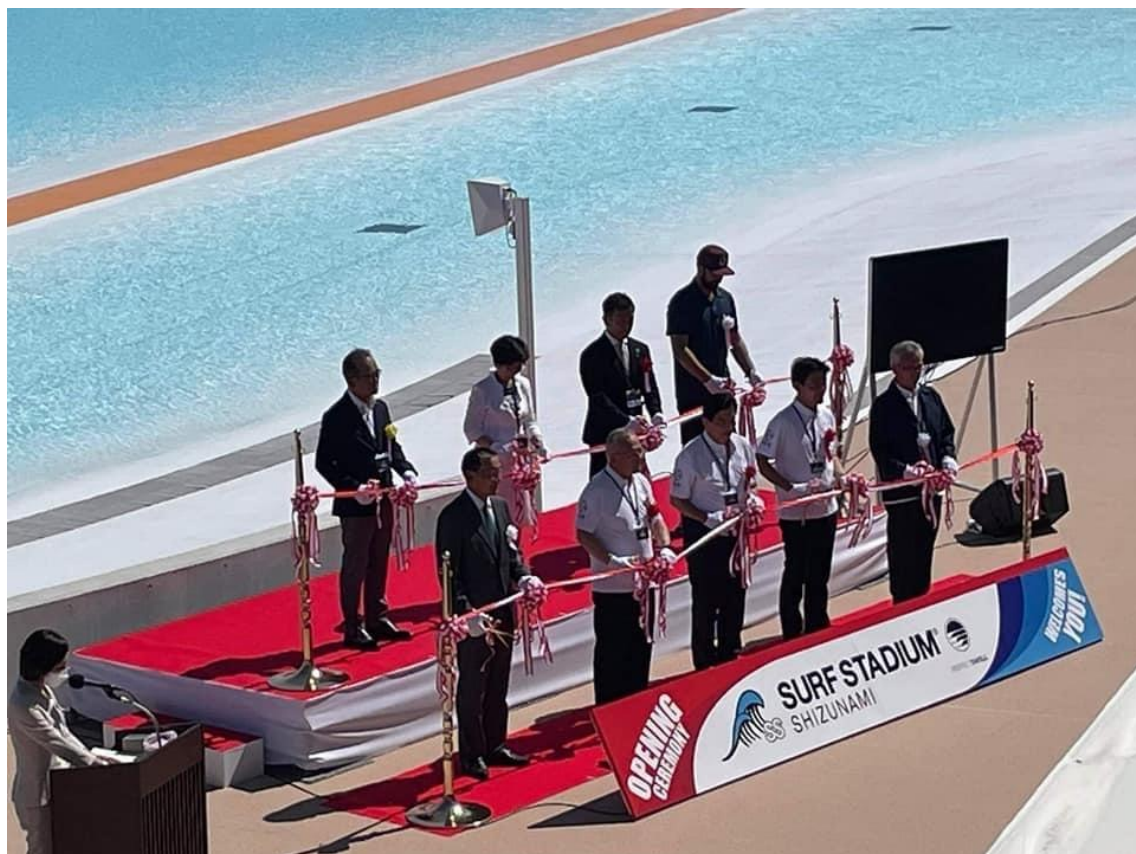


公開練習で波に乗る日本代表選手。スタジアムの一般向けの営業は8月中に開始する=12日午前、牧之原市の静波サーフスタジアム(静岡新聞社)

そんな中で、牧之原市ではオリンピックのサーフィン競技アメリカチームが7月16日から19日まで事前合宿を行いました。それに先立ち、日本の代表チームも12日と13日に一足早く事前練習を行いました。ただ、ホストタウンに名乗りを上げて、数年にわた

って事前キャンプを実施していた中国チームが、予選敗退でこの場にいないことがとても残念でした。

その事前合宿の会場はサーフィン競技なのに海ではありません。7月15日に完成式典が行われたサーフィン専用プール「サーフスタジアム静波」です。



#### テープカット

「サーフスタジアム静波」の開会式は、7月15日、梅雨が明けた快晴の猛暑の中で開催されました。関係者の挨拶から、日本で初めてのサーフィンプール建設の困難さが説明されました。コロナ禍で資器材の遅れや、技術調整の段階でアメリカから技術者が来れない状況が続いたなど、オリンピック開催前に間に合ったこと自体、大変な努力が尽くされたことがわかりました。

川勝静岡県知事や杉本牧之原市長のテープカットに続いて、波を起こすためのスタートボタンを押すセレモニーが準備されました。

発案者で事業者でもある星泰雄氏やアメリカの企業代表者に交じって「発案者」の一人として私が紹介されてボタンを押しました。



スタートボタンを押す

空気のと繊細なコンピューター制御によって作られた波が、眼前を横切っていく様を見て、私も万感の思いがこみ上げてきました。

7年前、牧之原市長であった私に、サーフィン競技が東京オリンピックの種目に入りそうだという情報が入ってきました。すぐに私は「牧之原市の静波海岸にサーフィン競技会場を誘致しよう！」とサーフィン関係者や議会などと図って行動を始めました。

一線を離れて海外にいた牧之原市の実業家 星泰雄さんに「星さんサーフィンプールを作りたい」と要請しました。彼は快諾してくれて、そこから牧之原市と事業者と様々な関係者が一体となって取り組んだ結果この日を迎えました。

当初の目論見であったオリンピック誘致のための計画は途中で頓挫しました。それでも事前合宿地としてのホストタウンがアメリカと中国に決まると、「事前合宿に間に合うように！」とスピードアップをしました。結果として、様々な障害を切り抜けて進めるには時間が足りなく、仮に2020年に開催されていたら、アメリカチームを迎えることはできませんでした。皮肉にも、コロナの影響でオリンピック開催が1年遅れたことで、晴れのオリンピック選手の事前合宿が実現できました。

「静波サーフスタジアム」は、日本初上陸の American Wave Machines 社の造波装置を採用していて、プールの大きさは長さ 150m、幅 50m、水深最大 6m で、プール貯水量は 6000トンあります。

## ## 動画

アメリカ・テキサス州の BSR サーフリゾートや、ニュージャージー州のアメリカンドリームなどで既に導入されている同造波装置に比べ、波を生成するソフトウェアプログラムがアップデートされ、機械部分がパワーアップしているそうです。プールサイズは小さいですが、より大きな波が生成出来、技術的には高さ 2.1mまで出力できます。

波の種類は 85～100 パターンになるそうです。「ハンティンビーチの波」「湘南の波」を再現できるそうですが、浙江省「銭塘江の大逆流」は無理ですね。2メートル近い波が連続して起こせるこの施設は、プロの皆さんにとってはとても魅力的だそうです。

透き通る青色の水は、くみ上げた豊富な地下水と最新式循環ろ過装置によります。夜のライトに映し出される水面は、波とサーファーの描き出す素敵なハーモニーが楽しめるでしょう。営業は 8 月中旬からですが、一般のお客様も 2 階のレストランからイタリア料理を楽しみながら見学することもできます。

私は、アメリカチームの事前合宿の最終日、星氏とその練習風景を見ながらここから世界チャンピオンやオリンピックの金メダリストを出したい！と思うのと、もう一つ「誰でもがサーフィン競技に親しむことによって海を恐れない子供たちを作りたい」と強く思いました。

日本はぐるっと四方を海に囲まれています。人の移動こそ飛行機になりましたが、ほとんどの物資の輸出入は船によって運ばれています。さらに豊かな水産資源のおかげで日本人の食卓に魚が出ない日はありません。自然環境の循環営みに最も重要な海ですが、最近では子供たちが海に接する機会が減っています。

その理由は、体がべとつく、砂が付く、泳げない、危ない、いくつもありますが、子供のころからの教育に、危険だからプールにするといい海を避ける大人の理由が大きいと思います。

では、このサーフスタジアムを使って、子供たちが水に親しんでみたらどうでしょうか。塩水ではないからべとつかないし砂もありません。浅いゾーンは 50 センチですから危険ではありません。サーフィンゾーンで練習するようになっても監視体制は万全です。危険なことを安全に安心して訓練する場として最適です。

牧之原市の子供たちが、このプールで水辺の経験をしてほしいと思います。少しづつ他のことにも挑戦し、いずれは海で大きな波に乗ったり、ウインドサーフィンや SAP やヨットにも親しんでほしいと思います。市外県外の皆さんにもチャレンジしてもらいたいですね。

数年前、上海の友人が「サーフィンプールをすぐ作るよ！」と言っていましたがまだできていないようです。中国でもこのような施設を作って選手強化を図り、中国ナショナルチームが 4 年後はオリンピックに出場することを期待しています。

文: [西原茂樹](#), MIJBC 理事長

関連記事

[期待东京奥运会促进与地方城市的交流 - 客观日本 \(keguanjp.com\)](#)